



アドビ、新たなジェネレーティブ AI 「Adobe Firefly」を発表

- Adobe Firefly の初代モデルでは、あらゆるレベルのユーザーに高品質の画像生成機能および卓越したテキストエフェクトを提供
- 商業利用に特化したジェネレーティブ AI のプライベートベータ版を提供開始
- 将来的に、Adobe Creative Cloud、Adobe Document Cloud、Adobe Experience Cloud、Adobe Express のワークフローに直接搭載
- クリエイター所有のコンテンツが Firefly のトレーニングに使われないようにするため、「Do Not Train」タグを導入：タグはコンテンツが使用、公開、保存される場所に関わらず、コンテンツに関連付けられる
- ユーザーが Firefly のトレーニングを行うことを可能にすることを計画中：自身の作品を使用し、ユーザーのスタイルやブランド言語に基づいたコンテンツ生成を可能にすることを予定

Firefly 紹介動画：<https://www.youtube.com/watch?v=DvBRj--sUMU>

※当資料は、2023 年 3 月 21 日（米国太平洋時間）に米国本社から発表されたプレスリリースの抄訳です。

【2023 年 3 月 21 日】

アドビ（Nasdaq: ADBE）（本社：米国カリフォルニア州サンノゼ、以下アドビ）は本日、画像生成機能およびテキストエフェクトを中心とした、クリエイティブなジェネレーティブ AI



モデル「Adobe Firefly」を発表しました。将来的には Adobe Creative Cloud、Adobe Document Cloud、Adobe Experience Cloud、Adobe Express のワークフローに直接搭載され、コンテンツの作成・修正作業にさらなる精度、パワー、スピード、手軽さをもたらすことになります。Firefly は、アドビのクラウドアプリケーションを横断する、新しい Adobe Sensei のジェネレーティブ AI サービスシリーズの一部となる予定です。

アドビは10年以上にわたる AI イノベーションの歴史を持ち、Adobe Sensei を通じて何百ものインテリジェントな機能を、何億人もの人々が信頼しているアプリケーションに提供しています。Adobe Photoshop の「ニューラルフィルター」、Adobe After Effects の「コンテンツに応じた塗りつぶし」、Adobe Experience Platform の「アトリビューション AI」、Adobe Acrobat の「Liquid Mode」などの機能を活用し、パワー、精度、スピード、手軽さをもって、何十億ものコンテンツの作成、編集、測定、最適化、レビューをおこなっています。これらのイノベーションは、説明責任、社会的責任、透明性というアドビの AI 倫理原則に沿って開発、展開されています。

アドビのデジタルメディア事業部門代表のデイビッド ワドワーニ (David Wadhvani) は次のように述べています。「ジェネレーティブ AI は、AI によるクリエイティビティと生産性の強化を次のステージに進化させ、クリエイターとコンピューター間の会話をより自然で、直感的で、パワフルなものへと変容させます。アドビは Firefly により、ジェネレーティブ AI を搭載した『クリエイティブのみなもと』をユーザーのワークフローに直接導入し、ハイエンドクリエイターから、引き続き盛り上がりを見せているクリエイターエコノミーまで、すべてのクリエイターの生産性とクリエイターの表現力を引き出します。」

クリエイターに新たなスーパーパワーをもたらす Adobe Firefly



アドビは、すべてのクリエイターが自分の想像力そのままのスピードで創作活動ができるように Firefly を設計しています。Firefly を使用することで、コンテンツを作るすべての人が経験や才能に関係なく、自身の言葉を使い、画像や音声、ベクター、ビデオ、3D から、ブラシ、カラーグラデーション、動画変換などまで思い描いた通りのコンテンツを、これまで以上に簡単かつスピーディに生成できるようになります。ブランディングを保持しつつ、無限のバリエーションのコンテンツを何度でも、迅速かつ手軽に作成できるのです。また、業界をリードするアドビのツールやサービスに Firefly を直接搭載することで、ユーザーは既存のワークフローの中で、気軽にジェネレーティブ AI を活用できるようになります。

今回の発表に伴い、アドビは本日 [Adobe Firefly](#) のプライベートベータ版を公開しました。これにより、経験やスキルを問わず、すべてのクリエイターが高品質な画像生成や卓越したテキストエフェクトを体験できます。また、アドビはテクノロジーの力を最大限に発揮するには、人間の素晴らしい想像力が不可欠であると考えており、プライベートベータ版のプロセスを通じてクリエイティブコミュニティやユーザーと深く関わりながら、この革新的な技術を進化させ、アプリケーションへの統合を予定しています。今後、アプリケーションに順次統合され、はじめに Adobe Express、Adobe Experience Manager、Adobe Photoshop、Adobe Illustrator で Firefly が利用できるよう計画を進めています。

商業用としての安全性を考慮した高画質な画像

将来的に Firefly は複数のモデルで構成され、さまざまなスキルセットや技術的バックグラウンドを持つユーザーの幅広いユースケースをカバーできるように調整されます。最初に搭載されるモデルは、Adobe Stock の画像や一般に公開されているライセンスコンテンツや著作権が失効しているパブリックドメインコンテンツを対象としており、画像やテキストエフェクトを中心に、商業利用として安全性を考慮したコンテンツを生成するように設計されています。



Adobe Stock で提供されている素材は、市場で最も高品質な、何億枚ものプロ仕様のライセンス取得済み画像のため、Firefly は他のクリエイターやブランドの IP（知的財産）を侵害するようなコンテンツの生成は行いません。今後、アドビやその他のソースが提供するさまざまなアセットや技術、トレーニングデータを活用した複数のモデルの追加を予定していますが、アドビは引き続き、それらの実装においても潜在的なバイアスに優先的に対処します。

ユーザー中心のアプローチ

アドビは、クリエイターが自身のスキルや創造性から恩恵を受けられるようにジェネレーティブ AI を設計しています。

- **クリエイターの制作効率を向上**：コンテンツは世界経済の原動力であり、クリエイティビティとデザインは今日、かつてないほど高く評価されています。最近の[アドビの調査](#)によると、過去1年間でコンテンツ需要が2倍以上になったと回答したブランドが88%にのぼり、3分の2の企業が今後2年間でその需要が5倍になると予想しています。アドビは、こうした需要の高まりがクリエイターにもたらす負荷を軽減するために、ジェネレーティブ AI を活用した迅速でスマート、かつ便利に作業ができるソリューションを提供します。それには、ユーザーが所持するコラテラル（画像やマーケティング資料など）で Firefly をトレーニングし、固有のスタイルやブランド言語に基づいてコンテンツを生成できるような機能も含まれます。
- **クリエイターへの対価**：アドビは、Adobe Stock や Behance で行ってきたような、プロフェッショナルクリエイターが自身の作品を収益化できるような機会や仕組み作りを目指し、ジェネレーティブ AI サービスの構築を計画しています。Adobe Stock では、AI のトレーニングにクリエイター（コントリビューター）がストック素材を提供した場合、そのデータセットをもとに Firefly が生成した画像から得られる収益を、クリエイターが享受できるような方法を検討しています。詳細については、Firefly のベータ版が終了した際に、改めてお伝えをする予定です。



- **オープンスタンダードの提言**：アドビは、デジタルコンテンツの帰属表明において信頼性のあるグローバルスタンダードを構築するために、コンテンツ認証イニシアチブ（CAI）を設立しました。現在、世界中に 900 以上のメンバーが加盟しており、CAI の役割はかつてないほど重要なものとなっています。アドビは、非営利団体 [Coalition for Content Provenance and Authenticity \(C2PA\)](#)（英語）を通じ、開発が活発な CAI のオープンソースツールを無償提供し、オープンな業界標準を推進しています。これらのゴールには、クリエイター所有のコンテンツがモデルのトレーニングに使用されないよう要求するために、画像のコンテンツクレデンシャルに「Do Not Train」タグを付ける機能も含まれています。このタグは、コンテンツの使用、公開、保存といったあらゆる局面において、コンテンツに関連付けられたままとなり、また AI が生成したコンテンツにも、「AI 生成」を示すタグが付けられます。
- **Adobe Firefly のエコシステム**：アドビは、顧客がカスタムワークフローやマーケティングオートメーションに統合できるように、Firefly を様々なプラットフォーム上の API 経由で利用できるようにする予定です。

■「アドビ」について

アドビは、「世界を動かすデジタル体験を」をミッションとして、3 つのクラウドソリューションで、優れた顧客体験を提供できるよう企業・個人のお客様を支援しています。[Creative Cloud](#) は、写真、デザイン、ビデオ、web、UX などのための 20 以上のデスクトップアプリやモバイルアプリ、サービスを提供しています。[Document Cloud](#) では、デジタル文書の作成、編集、共有、スキャン、署名が簡単にでき、デバイスに関わらず文書のやり取りと共同作業が安全に行えます。[Experience Cloud](#) は、コンテンツ管理、パーソナライゼーション、データ分析、コマースに対し、顧客ロイヤルティおよび企業の長期的な成功を推進する優れた顧客体験の提供を支援しています。これら製品、サービスの多くで、アドビの人工知能（AI）と機械学習のプラットフォームである [Adobe Sensei](#) を活用しています。



アドビ株式会社は米 Adobe Inc.の日本法人です。日本市場においては、人々の創造性を解放するデジタルトランスフォーメーションを推進するため、「心、おどる、デジタル」というビジョンのもと、心にひびく、社会がつながる、幸せなデジタル社会の実現を目指します。

アドビに関する詳細な情報は、web サイト (<https://www.adobe.com/jp/about-adobe.html>) をご覧ください。

© 2023 Adobe. All rights reserved. Adobe and the Adobe logo are either registered trademarks or trademarks of Adobe in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.